

分論議されたが、兩事件とも一定の標準を決定して散會した。

右の二事項は曾て本會調査部で調査研究中のものであつて、主任官の意見を聴くの必要があつたので八日午後五時三共ビルヂングに主任官を招待して、其の勞を稿ふ爲に粗宴を催して意見を拜聽し得る所多大であつたが、克く意見を吐き議論する兵庫縣の田邊良忠君が、主任官會議の節病氣に罹つて此委員會に顔を出さなかつたのは、何さなく淋しかつた。

◎評議員市瀬恭次郎氏の逝去

本會評議員、内務技師工學博士市瀬恭次郎氏は、曾て病氣靜養中であつたが八月十五日東京市外上駒込南染井の自宅に於て永眠された、氏は明治二十三年東大工科を出てから今日に至るまで三十有八年の久しきに亙つて内務省直轄工事の爲に盡され、北上川の改修やら、神戸築港は、氏勞力の結晶であるを稱せられてゐる、大正十三年内務技師監任

官後は本會評議員として活躍され、最近に於ては調査部第五分科の主査として山陽道々路改良計畫の調査に盡され、其の調査は氏の病氣中に完成したが、之を査閲せずして長逝されたのは頗る遺憾とする所である、本會は墓前に生花を贈り田中幹事をして左の吊詞を呈した。

吊詞

評議員市瀬恭次郎君ノ逝去ヲ悼ミ茲ニ謹テ
哀悼ノ意ヲ表ス

昭和三年八月十七日

道路改良會長 水野鍊太郎

◎第四回道路職員講習會の狀況

本會主催の第四回道路職員講習會は既報の如く、去る八月十一日より丸の内元衛町内務省社會局三階大會議室に於て開會、豫定通り十日間の講習を了へて、同二十二日盛會裡に閉會した。この講習會は大正十一年初めて開催したもので、その後隔年毎に開くこととし、既に回を重ねること

三回、今回は第四回目に當るのである。この會は我が國に於ける唯一の權威ある講習會として、回を重ねる毎に好評を博して居るが、今年も各府縣を初め、遠くは臺灣、朝鮮、樺太より各官廳推薦の事務官技術官總計百六拾三名の聽講者を得た、何拾年振りかの不順なる天候にもかゝらず毎日熱心且稀れに見る緊張さで一人の病人も又一人の欠席者も出さなかつた事は本會の満足する所である。

際洵に御苦勞に存する次第であります。本會は御承知の如く道路の改良竝に道路に關しまする諸政策を考究するが爲に、大正八年に設立せられたのであります。爾來中央竝に地方に於ける交通問題に關しまして、幾多の研究を爲し、

幾多の調査を爲しまして、或は場國の機關に、或は地方の機關に建言致しまして、道路問題に就きましては多少の効果を擧げて居ることも、考へる次第であります。殊に近時道路改良に關しまする聲は各方面に擧つて來たのであります。自動車の發達に伴ひまして、道路の改良が一段その必要を感じるやうに相成つたのであります。か

開會の辭

本日より第四回道路職員講習會を開くのであります。各地方より斯く多數の御來會を得ましたことは本會に於て極めて欣幸とする所であり、殊に炎暑の



ら、各地方に於ても道路の改良に關しまする諸般の施

設が其の急要を告ぐるに到つたこと、考へるのであります。それ故に道路に對しましては諸般の問題を考究することが極めて必要であらうと思ふのであります。

殊に道路の良否といふことは、地方産業の發達並に國民生活に重大の關係を有するのでありますから、今後一段此の點に向つては、國家としても又地方も致しまして、十分なる努力を致さねば相成らぬと思ふのであります。

本會は此の趣旨を以て設立せられたのでありますから、種々の事業を爲して居るのでありますが、道路職員講習の如きも其の事業の重要な一つとなつて居るのであります。大正十一年より一年置きに講習會を開いて居るのでありますが、茲に回を重ねること第四回に及んだのであります。從來の成績を見ますと、大體に於て良好なる結果を齎して居るものと考へる次第であります。此のたびも亦諸君は、道路に關して、或

は技術上の方面に於て、或は法制並に事務の方面に於ての諸講師の講演をお聴きに相成るのであります。之に依つて諸君が道路の仕事に従事せられる上に於て、其の得る所蓋し少くないといふことを確信致す次第であります。

地方に於て近年道路の改善施設が行はれるのであります。此の問題は從來之餘程趣きを異にしなればならぬと思ふのであります。從來は主として人馬の交通を目的と致して居つたのでありますけれども、今日以後に於きましては、道路が自動車其の他の施設に依りまして、一生面を開かねばならぬ時機に到達したと思ふのであります。殊に道路の構造に就きまして、從來と趣きを異にせねばならぬことは謂ふまでもないと思ふのであります。或は幅員の點に於て、或は勾配の點に於て、或は舗裝等の點に於て、或は橋梁のことに就きましても、從來の構造施設其の儘を應用して行

く譯には行かないのであります。故に今日では何れの國に於きましても、道路問題に就ては革命期に達して居る言はれる位であります。斯くの如く日に進み、日に新なる時機に遭遇致しましては、お互ひ道路に關係致して居ります者は、益々深く道路に關しまする技術上の原理並に法制事務等の上に於きましても、一段の革新を加へねば相成らぬと思ふのであります。此の趣旨を持ちまして本會に於て講習會を開き、最近の論理並に實際の狀況に就ての講習を致すこゝに相成つたのであります。

唯だ期間が十分でありませぬ、僅に十日間に過ぎないのでありますから、吾々が期して居るだけの事を望む譯には行きませぬけれども、併し此の短期の期間に雖も、其の間に於て諸方面専門の人々からの講演をお聴きに相成りますれば、必ずや諸君の得る所は少くないと考へるのであります。どうぞ此の趣旨を持ちまして此の講演會が開かれて居るのでありますから、諸君

は十分に各専門の方々のお話をお聴き下さいまして、御歸縣の上に於きましてはそれ／＼實際の上にて之を應用するやうに致されたいと思ふのであります。茲に開會の初めに當りまして、一言會長として御挨拶を述べらる次第であります。

講義の順序は豫告の通り、内務省土木局長宮崎通之助氏の「土木行政」より始まつた、講義の内容は別に報導するから省略するが、第三日の十三日は内務省土木試験所見學のために、本郷區上富士前の同試験所に午前八時に集合して視察した、土木試験所は道路技術界の權威と言はれ、日夜道路に關する斬新なる研究が行はれて居る所で、同試験所の見學は講習日程のうちの重要なものゝ一つであつた。この日は日曜にもかゝらず、物部所長を初め、各技師出所せられ、所長は挨拶を兼ね、各技師を督勵自ら講習員の指導に當られたるは我等初め講習員の感激措く能はざる所であつた。各員は多大の收獲を得、最後に各班に別れて記念撮影をした。それより思ひ／＼に電車や自動車で、次に視察すべ

き黒門町地下鐵停車場の事務所に到り、同所の階上ホール

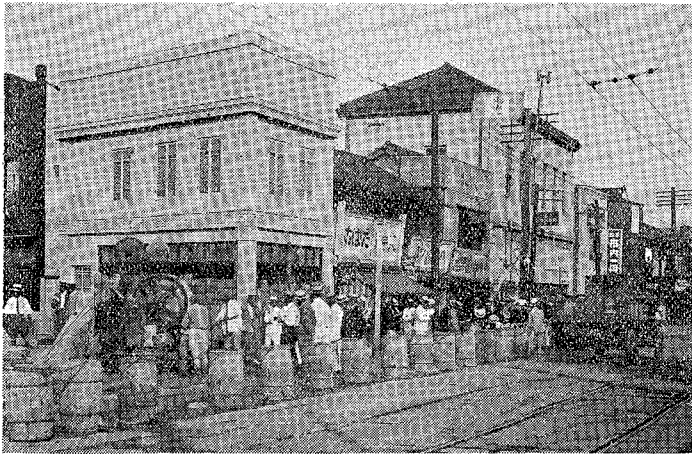


部一の員習講るけ於に所驗試木土

で、同社技師長より、地下鐵の構造及工事概況を十分に分けて説明して貰つた、それより各班に別れて、各技師の案内で工事實況を視察した。本邦に於ける初め

てこの種工事は、各員に於て頗る興味が深いので熱心

に視察した、終つて同所に於て記念の撮影をしたが懇切な



況狀の事工路道狀環府京東の間寺現天谷澁

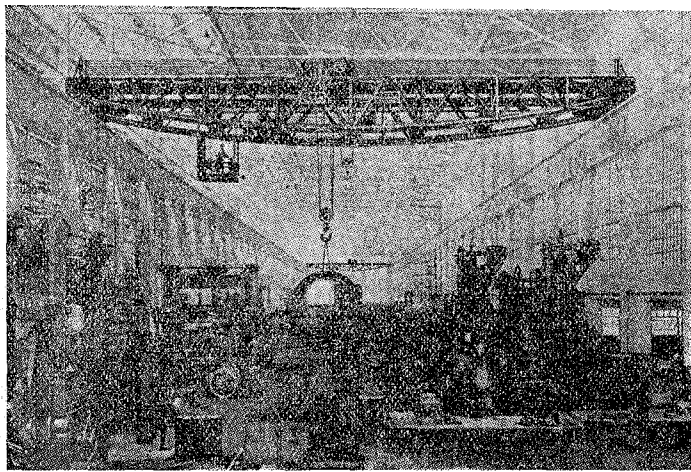
説明案内の勞をこられた同社技師長を初め各技師に敬意を表するのである、各員はそれぞれ自動車又は電車に依つて麻布霞町に集合、東京市川島、大石兩技師の案内

で、霞町より青山三丁目に至る間の簡易鋪裝道路を視察

じ、實地に就てその施工方法の説明を聴取し、尙ほ炎天の下にて、兩技師と講習員の間に質疑應答があつた。この間約一時間、その灼くが如き炎天に於ける講習員の熱心もさるこゝながら、川島、大石兩技師の懇切なる應答は全員の厚く感謝するこゝろであつた。それより更に澁谷天現寺間の東京府環状道路の改修状況を視察した。この路線は改修中であるので、その鋪裝材料、工事實況を實地に見るこゝが出来て技術家のみならず、事務家の得る所頗る多大であつた。

それより同日日程の最終視察地たる月島のソリデチット工場を視察した。同社に於ては視察後、茶菓の饗應があり、その席上、社長今井氏は感謝の意を述べ、併せて、現在の日本の道路が歐米に比し頗る不良なるを慨し、これが改良に對する抱負を述べられたが、吾人の首肯するこゝろが甚だ多かつた。同工場の視察を以て、この日の日程を終り、午後六時散會した。この日は炎天にもか、はらず、案内する者、される者共に頗る熱心、いさゝかの疲勞の色を

もあらはさず、耳の學問では得られぬ多くの獲物のあつた



石川島造船所工場の一

こゝには、講習員の最上の愉快、最大の幸福であつた。こゝに案内やら説明された諸氏に感謝する。

第六日目の十六日に於ける、青木技師の第三回目の

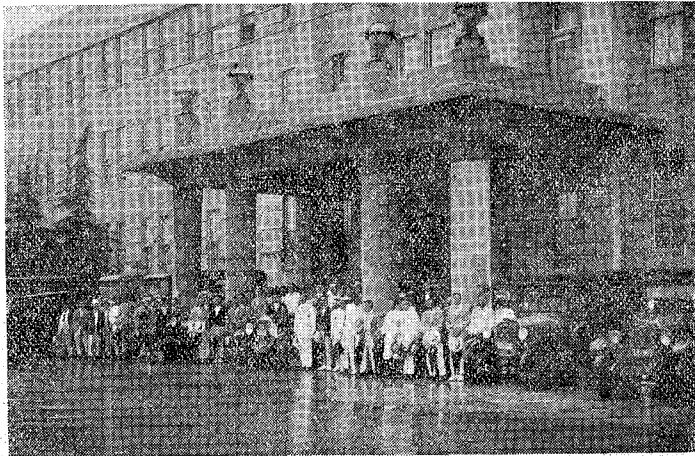
「鋼橋」に

關する講演がすむと、直ちに全員石川島造船所の見學に赴

いた。同造船所の大規模な機械や、斬新なる機械器具類は一本、講習員の眼を驚かし、亦熱心に案内された同社技師の説明に耳を傾けて居た。同造船所内には、ウーズレー自動車製作場があるばかりか橋梁の鐵板、鐵材、鐵骨等を主として製作し、鐵製の材料は殆んど同所に於て製作される。視察後全員は茶菓の饗應を受け、席上二三の技師の談話があつて、約一時間にして散會、案内の勞をせられた土木試験所青木技師及同所技師諸賢に深く感謝の意を表する次第である。

第七日目の十七日は、平山鐵道技師の「豫定工事施工に就て」の講演が終つて午後三時から宮城外苑道路舗裝工事概況を視察し、それより直ちに本所業平町のアスファルトプラントを視察した。アスファルトは道路に最も關係の深いものなので、これが製作情況見學はまことに講習員諸氏に取つても有益であらう。同所に於ては日本石油會社の道路部の技師數氏より懇篤なる説明を實際に就て聽取し、それより同社長橋本氏の東京會館に於ける茶會に出

席したが、同席上に於て、橋本社長は本日の視察を深く感



社員講習會前於に於ける講習員

謝してより、我が國道路現狀を歎じ、その所感を縷々として述べられた。會後一同記念撮影をなして散會。橋本社長を始め、丁寧懇切に説明の勞をせられた技師長關

根博氏及諸氏に誌上ながら深く感謝す。

第十日目の廿日は帝都復興事業を視察する日だが前日より天候を氣づかつた通り矢張り篠を突くやうな豪雨で、大いに失望した。然しながら、集合場所たる社會局には、復興局の牧野道路課長を初め遠藤技師外五名は日曜なる上この天候なるにもか、はらず、早朝より召集せられたが、講習會員も亦續々詰めかけ、一名の不參者もなかつたのはまことに悦ばしかつた。先づ二時間半に亘り、東京市の復興道路公園共同溝に就いて視察すべき地點の詳細なる説明があり、それより全員甲乙二班に分れて、復興局で心配された自動車に分乘し、社會局を振り出しに先づ永代橋を渡り、清州橋を通過し、濱町公園の復興情況を視察し、更に兩國から藏前を過ぎ、駒形橋を渡り、更に東橋を左にて、言問橋にて一同下車して、新裝を充分に視察し、橋をバツクに記念撮影を爲し、淺草をすぎて、上野公園に出で、更に本郷三丁目を通過し、お茶の水に出で、今川小路を通過して、九段に到りて下車、同所にある日本最新式の共同溝を視察したが、雨中で内部を見ることは能はなかつた

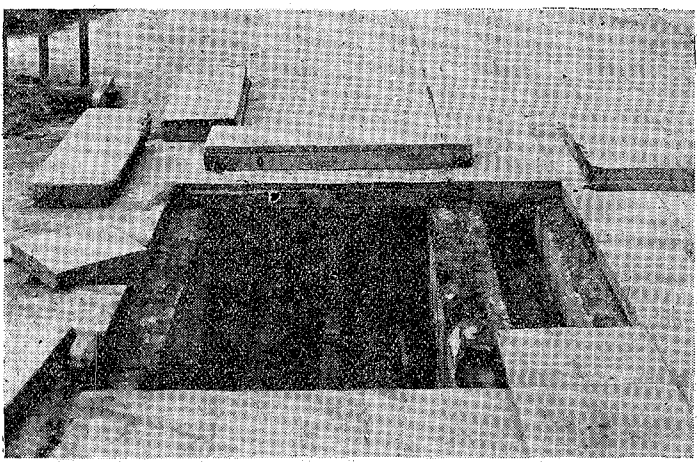
ので、寫眞により説明を聞く。内部を視察出来なかつたのは返すくも残念であつた。同所



苑鋪裝を視察し、社會局に歸つて散會した。

は返すくも残念であつた。同所より更に櫻田本郷町、字田川を通過して、汐留に出で、同所の工事實況を視察し、三十間堀より銀座を通り馬場先門に到りて、宮城外

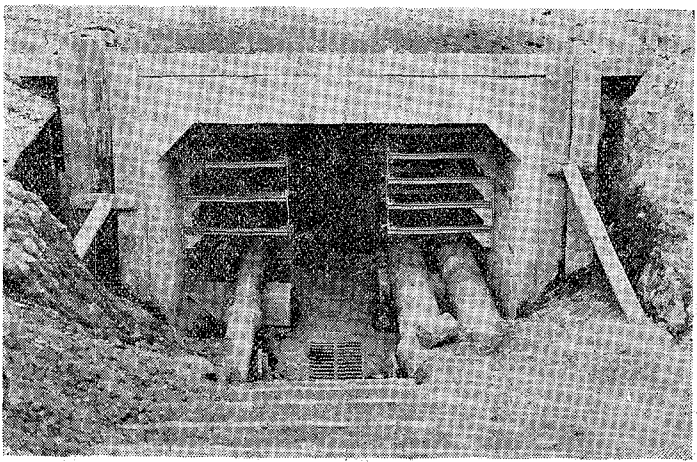
最終日は、牧野復興局道路課長の高級舗装道についての



共同溝の一部

講演を以て、本講習會の科目を全部修了したわけ、午後三時より修了證書授與式を行つた。内田副會長より修了者總代永井大阪府技師に修了證書を一括して授與

あるので、技術事務兩方面に互つては、思ふように十分



共同溝の一部

なる會得は困難なることだこは思ふが、然し、講師諸氏の熱心なる指導、亦會員諸君の熱心緊張さでやられたから多少の得るところはあつたと思ふ。であるが、これ

し、次いで一場の挨拶を述べ、今回はまことに短い期間で

は一朝一夕では會得されることは困難なのであるから、歸

任せられたならば、多少もこれを参考とし、實際に應用して、本講習會の目的を少しでも達して貰ひたい。さうも今年は稀に見る不順なる天候にもかゝらず早朝から一名の欠席者もなく講習を受けられたるはまことに喜ばしい次第である云々。

これに對して永井技師は講習員を代表して只今は副會長から御親切なる御言葉を賜つたのはまことに私共の感謝するところである。暑いところをわざわざ私共の爲めに講習會を開いて下さつたことはまことに感激に堪えない。殊に講師の方々の熱心なる御指導は肝に銘じて忘れ難く、短日であつたが、私共のうけた事務竝に技術上の事項は大いに参考になつた。及ばずながら、各々歸任の上はこれを参考として路政に貢獻し度いと思ふ。時節柄講師幹部の御自愛を望む旨の謝辭を述べた。こゝに本講習會は無事に終了したわけである。

それより小石川植物園に於て園遊會を開催した。特に參謀本部廣瀨少將、丹羽道路課長を初め、諸講師出席せら

れ、植物園池畔に於て、美しい景勝を愛でつゝ、ビールの滴を引き、快談一刻。宴半ばに廣瀨少將、丹羽課長の演説あり、各々胸襟を開きて語るこゝ更に數刻、この日池畔に於て、紀念撮影をして散會した。

翌廿二日は午前九時より、特に宮内省の了解を得、新宿御苑の拜觀を許され、都筑幹事引卒のこゝに、五十五名御苑内を拜觀。正午散會した。これでこの講習會は全く無事盛會裡に終了した。

最後に臨み講師諸氏竝に視察先の諸官廳諸會社の幹部技師諸氏に厚く感謝の意を表する。(上山生)

今回修了證書を受けた講習員は左の通りである。

北海道

永井 雄 毅 古 谷 裕

東京府

菅原 有 爲 郎 根 本 一 衛

長 谷 川 潔

大阪府

内田 武三 平野 徳松

赤木 忠晴 初岡 太守

高橋 惣市 毛利 魁

山崎 五六

神奈川縣

村上 一治 杉山 鎔

根井 友信 西本 定喜

藥師 榮七

兵庫縣

中田 熊太郎 大多和 一人

高宮 正彦 片岡 良彦

石井 良筈 森田 利一

新潟縣

岡 忠成 齊藤 一巳

埼玉縣

黑澤 源市 鈴木 臺三

山林 盛一 稻葉 啓作

上田 爲三郎

群馬縣 蜂巢 勝次郎 中澤 參四郎

齊藤 致重 石原 定壽

中澤 高司

千葉縣

佐藤 辰男 山越 大亮

茨城縣 毛利 齊二 島村 時雄

川崎 秋廣 中山 春夫

梶 博

栃木縣 岩淵 英治郎 荒 政男

山本 忠道 古宮 信次

奈良縣

加藤 光登 三浦 久藏

加藤 光登 三浦 久藏

川島 精三 伊東 榮之助

佐藤 慶治

松尾 才助 和田 政一

滋賀縣

佐々木 岩吉

大津 武夫

杉橋 涉

三重縣

西岡 篤太郎 山田 琴高

岐阜縣

木澤 直 川喜田 久作

山北 省三

居川 太郎

倉田 清 西村 健次郎

長崎 儀一

愛知縣

野村 弘 藤倉 五郎治

長野縣

西澤 美則

永井 德太郎 久世 松二郎

官城縣

三井 睦三

靜岡縣

岡田 音吉 鈴木 源作

大槻 源八

相澤 包助

宮臺 武三 大場 茂也

管間 良一

伊藤 一男

清水 喜三郎

福島縣

渡部 嘉吉

山梨縣

塚田 實 古田 泰介

岩手縣

松本 庄次郎

長谷川 良助 平田 益泰

千葉 復二

遠藤 靖

高橋 東吉

青森縣

齊藤 基季 高橋 二郎

山形縣

三橋 寬之 西條 宇助

坪沼 久良三

秋田縣

山崎 眞一郎 五十嵐 豐治

日野 龜雄

福井縣

清水 網賀 野村 實

加藤 久

石川縣

今村 貞 谷山 法林

富山縣

大志 摩平二 鹽原 光一

達摩 省吾 岡田 淳

黑田 久雄 西野 十吉

鳥取縣

岡田 幸五郎

島根縣

島田 國松 長塚 藤太郎

岡山縣

小長 種一 秋山 馬平

廣島縣

橋本 眞二 藤本 隅次

山口縣

加藤 平吉 花田 次郎 七

弘田 蘆雄 小淵 三吉

岡村 邦守

和歌山縣

中井 楠次郎 上田 恒太郎

德島縣

伊勢 邦市 若林 義雄

香川縣

田端 吉雄 山本 信市

大西 保夫 向井 義信

高知縣

日野 官藏 大野 謙二

福岡縣

森山 健次郎 坂場 信夫

田上 爲已 柚 新太郎

池田 廣次

大分縣

加月安右衛門 宮 尾 顯

仲村 耕作 華藤 熊太

永井 辰巳

佐賀縣

寺田 甫 甲斐 忠男

香月 賢 木下 孝幸

熊本縣

池邊 曹

宮崎縣

柳瀬 保忠 平 莖

本橋 理三郎 鈴木 秀五郎

鹿兒島縣

久保田 秀雄 永戶 三郎

古賀 平太

朝鮮

石井 重次 一戶 三郎

小中 勇作

臺灣

篠原 國憲 伊藤 一之

大賀 時雄

樺太

加島 龜藏 唯野 豪一

◎横田橋起工式

二號國道横田橋起工式は七月二十八日滋賀縣野洲川の上流甲賀郡三雲村地内横田礮に於て舉行された、本橋は曩に改築した野洲橋に亞ぐ長橋であつて近江三大橋の一である、現橋の長さは壹百七十一間、幅員は二間を有するけれども、明治二十六年八月の架換以來、既に三十有餘年の星霜を閲し、其間數次の修繕を加へて來たけれども、橋體の腐朽甚だしく今日の高速重量交通に適せざるを以て、茲に本日改築起工の式を擧ぐるに到りしもので新橋の概要は左の如くである。

- (一) 橋長、百〇八間(一徑間三十六尺、三徑間連續桁六組)
- (二) 幅員、二十呎、(三) 様式、鐵筋混凝土桁橋
- (四) 橋面上、アスファルト塊鋪裝
- (五) 取付道路、一千五百七十三間三分 幅員四間半
- (六) 總工費、金貳拾九萬參千九百〇壹圓

内(道路費) 一六四、四一八圓 國庫補助二分ノ一
(橋梁費) 一二九、四八三圓 國庫補助三分ノ二

(七)竣工期、昭和四年

此日は朝來快晴で炎暑酷しかつたけれども、對岸より清き流れを越して時々吹き來る涼風は煽風機に比し數段の差があつた。式は三發の號砲を合圖に最も嚴肅に左記順序によつて行はれた。

起工式順序

各員着場……………(是れより先手水の儀)

一、修祓

二、降神行事……………(警蹕諸員平伏)

三、神饌を供す……………(此間奏樂あり)

四、齋主祝詞を奏す……………諸員平伏

五、祭主(堀田知事)玉串拜禮

六、齋主玉串拜禮

七、參列者玉串拜禮

八、内務大臣(代理、武井内務事務官)

九、道路改良會長(代理、都築專任幹事)

十、内務部長

二、土木課長

ホ、縣會議長

ヘ、代議士

ト、甲賀郡町村長代表

チ、地元村長代表

八、神饌を撤す……………此間奏樂

九、昇神行事……………警蹕諸員平伏

式典順序

一、擧式の辭

二、知事式辭(長官 堀田鼎氏)

三、祝 辭

イ、内務大臣(武井群嗣氏代讀)

ロ、道路改良會長(都築通督氏代讀)

ハ、縣會議長

ニ、代議士

ホ、甲賀郡町村長代表 水口町長

ヘ、地元村長代表 三雲村長

四、式典終了

野洲磯原に於ける立食の宴後、一時間鮎漁の餘興あり、日没より三雲郵便局の柳花探光或は石部家の連光火、矢野組寄贈にかゝる雨中彩火綠色一光等數百の煙火に同河原は十時過ぎ迄賑つた、左記知事の式辭、内務大臣、道路改良會長の祝辭を見れば本橋の概念を窺知するを得やう。

式 辭

本日國道二號線横田橋ノ起工式ヲ擧グルニ方リ貴賓多數ノ貴臨ヲ辱ウシタルハ深ク之ヲ光榮トシ感謝措カサル所ナリ抑本縣國道ハ曩ニ瀨田、野洲、御幸ノ三橋改良ニ由リ其ノ面目ヲ一新シタリト雖等シク要衝ニ在ル本橋カ多年狹隘腐朽ノ舊態ニ在リテ其ノ交通機能完シト謂フヘカラサルモノアリタリ、シカモ今ヤ時到リ機熟シ大正十四年縣會ノ議ヲ經次テ國庫ニ補助ヲ受ケ茲ニ工事ノ着手ヲ見ルニ至ル惟フニ鈴鹿峠ノ開鑿既ニ其ノ功ヲ竣ヘ今又更ニ本橋ノ改良ヲ見ムカ湖南國道交通ニ一新記元ヲ劃スルニ至ルヘク洵ニ欣快ニ堪エサル所ナリ之カ施行ハ素ヨリ工事關係職員ノ適切ナル監督ニ負フ所多大ナリト雖請負人其人ノ熱誠ナル努力ヲ要望スルト同時ニ地方有志各位ノ深厚ナル援助ニ俟ツモノ亦極メテ多キヲ想ハムハアラス希クハ臨場ノ各位愈官

民一致協力勵精敢テ本工事ノ完成ニ應分ノ力ヲ致シ以テ本日ノ式典ヲ意義アラシメラレムコトヲ聊所思ヲ叙ヘ式辭トス

昭和三年七月二十八日

式辭

滋賀縣知事 堀 田 鼎

道路ノ良否ハ地方産業ノ開發國民文化ノ進展ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲ改善シ之ヲ整備シ以テ時代ノ要求ニ適應セシムルハ極メテ喫緊ノ要務ナリトス由來二號國道ハ我國路上交通上夙ニ重大ナル使命ヲ有スルヲ以テ之カ改良ヲ急務トシ政府ハ事業ノ進捗ヲ助勢スル所アリ曩ニ鈴鹿隧道ノ開鑿ヲ見ルニ至リ今又横田橋架換ノ準備成ルヲ告ケ本日ヲ以テ起工式ヲ舉行セザルルニ遭フ邦家ノ爲洵ニ欣快ニ堪ヘサルナリ念フニ本橋ノ施工ニ就テハ精緻ノ技巧ト周到ナル用意トヲ必要トスルモノアルヘク翼クハ官民協力最善ノ努力ヲ致シ以テ之カ完成ニ努メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和三年七月二十八日

内務大臣 望 月 圭 介

祝辭

國道二號線横田橋架換準備成リ茲ニ本日ヲ以テ起工ノ式典ヲ舉クルニ至レルハ邦家ノ爲洵ニ欣快トスル所ナリ

惟フニ地方ノ産業ヲ開發シ民生ノ慶福ヲ進ムル蓋シ道路交通ノ利ヲ治ムルヨリ先ナルハナシ横田橋ハ野洲川ニ架設セラレ交通上極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ拘ラス年所ヲ閱スル既ニ久シク其構造又近代交通ノ要求ニ適セサルモノアリ今即チ架替ノ工ヲ起スニ會ス其完成ノ曉之ニ依リテ交通上多大ノ利便ヲ招來シ地方ノ開發産業ノ振興ニ資スル所必スヤ尠少ナラサルヘシ翼クハ最善ノ努力ヲ以テ之カ完成ヲ期シ長ヘニ其效果ヲ全フセムコトヲ一言以テ祝辭トス

昭和三年七月二十八日

道路改良會長 水野 鍊 太郎